

堺武男先生「今なぜ母乳なの？」研修会無事終了！

7月6日(水)多目的会議室で行われた堺先生の研修会には、院内外から130名を超える方に参加をしていただき、大盛況に終わりました。参加した方にインタビューをしてみました！①ふたりの子ども達を母乳で育て、果たして良かったのだろうかと思うこともあったため今回自分がやってきたことに自信がもてた。母乳育児を成功させるために、いろんな環境が整わないとダメなんだと感じた。私が母乳育児を継続できたように、何らかの支援をしていきたい。(看護師Mさん)②産まれたばかりの赤ちゃんがずっと一緒にいておっぱいをもらう、本来の自然な姿が実際の現場での経験に基づいて見直されているんだと感じた(研修でお世話になった総務Kさん)、③自分は母乳育児ができなかったが、家族にでていないんじゃないと言われたことも影響したと思う。やはり周囲の助けが必要と思った。今後は薬はどの程度まで母乳でいけるのかについて聞きたい。(薬剤師Mさん)多職種のかたに取り組みを知って頂くよい機会になりました。今後ともご協力をお願いします。



「母乳育児成功のための10カ条」の第6条 新生児科長 天沼医師より

10カ条では「医学的に必要でない限り母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう」と述べています。今回は当院の天沼医師より～新生児科医の立場から～についてお話いただきました。

天沼先生が新生児科医を始めた20年程前から母乳には敗血症、新生児壊死性腸炎、慢性肺疾患、未熟児網膜症の発症予防効果があるといわれていたそうです。

そして昨年上記に関して母乳による合併症の抑制効果についてのエビデンスが検証され、さらにアトピー性皮膚炎、糖尿病、白血病、SIDSなどの発症を減らすこともわかってきたといいます。

どんどんわかってきた**母乳の効果**を含めた新生児科医師の立場から頂いた天沼医師のお話は、
おっぱい通信7月増刊号へと続きます！乞うご期待！！



第6条の当院での取り組み

3西病棟では、今まで「母乳不足感」があれば追加していたミルクを、体重減少率や体温等を判断材料として血糖測定を行い、必要時5%グルコースを追加するなどしています。ただ、前回分娩後の栄養がミルクだった方は、母乳分泌状態に関わらずミルクを追加したいと希望することも多く、母親学級など妊娠中からの指導がさらに必要と考えています。

お問い合わせ

この通信の内容に関するだけでなく、現在妊娠中・育児中の方、その家族や上司の方などの、母乳に関する様々な相談もお受けいたします。また、月1回発行予定の本通信に掲載させていただける皆様のかわいいお子様の写真も募集中です！さらに、一緒にこのチームに参加して頂ける方も大募集！！どうぞお気軽にご連絡ください★

BFHプロジェクトチーム
チームリーダー：今野貴子(3西病棟)
通信発行担当：佐藤 恵(3西病棟)

